

令和7年度 定期モニタリング評価表（年間）				実施用
施設名	枚方市総合文化芸術センター	所管部署 （連絡先）	文化生涯学習課 （072-841-1409）	令和8年5月実施

この定期モニタリングでは、以下の表の評価項目・視点により確認を行いました。

評価項目		評価の視点	
1 業務の履行状況		事業・業務等が適正に実施されているか否かについて、実施状況・実施体制を確認します。	
(1) 選定時の基準（確認事項）・事業計画の内容（目標）に関する事項 (2) 施設の管理運営に関する経費の収支状況（使用料の収入実績を含む） (3) 募集要項・仕様書記載事項等に関する事項	市民ニーズの把握・対応状況	アンケート調査等の実施により、市民（利用者）のニーズを把握し、その結果を踏まえて改善を行っているかについて確認します。	
	経済性	料金収入や委託料等の収支状況について、当初の収支計画と乖離がないか、適正な内容となっているかについて確認します。	
	サービス水準	指定管理者によるサービス水準が適切なものとなっているかについて確認します。	
	リスクマネジメント	緊急事態発生時や機器・設備故障時等における対応状況や、対応体制・対応方法について確認します。	
2 業務の継続性・安定性		指定管理者の財務状況が継続的、安定的にサービスを提供できる状態にあるかについて確認します。	

施設の概要等			
所在地	本館：枚方市新町2丁目1番60号 別館：枚方市新町2丁目1番5号	主な業務内容	①文化芸術事業に関する業務(自主事業、指定事業、その他)②施設の貸出に関する業務(使用許可に係る業務、舞台管理業務)③施設の管理運営に関する業務(建物・設備の維持管理、外構・植栽の維持管理、備品の維持管理、清掃及び衛生管理、保安警備、駐車場・駐輪場管理、カフェ等運営、総務・経理、広報・宣伝、チケット販売、トレーニングルーム運営、その他必要な管理運営)
設置目的	多彩な文化芸術の鑑賞、創造及び普及活動並びに文化芸術の振興を支える人材の育成を推進し、本市の文化芸術の振興を図るとともに、人々の交流の促進や都市の魅力向上に寄与する拠点とするため、枚方市総合文化芸術センター(以下「センター」という。)を設置する。		
指定管理期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日		
指定管理者			
名 称 (JVの場合はグループ名)	アートシティひらかた共同事業体	代表団体 (JVの場合)	サントリーパブリシティサービス株式会社
所在地(JVの場合は代表団体の所在地)	東京都江東区豊洲3丁目2番24号豊洲フォレシア16階	構成団体 (JVの場合)	京阪ビルテクノサービス株式会社、株式会社大阪共立

1 業務の履行状況

(1) 選定時の基準（確認事項）・事業計画の内容（目標）に関する事項	
評価ポイントごとの評価基準	
5	計画以上に独自の新たなサービスを提供し、特に良好な管理運営を行っている。
4	計画以上の良好な管理運営を行っている。
3	計画どおりの適正な管理運営を行っている。
2	一部計画どおりにできていない、又は改善が必要であるが、概ね適切な管理運営を行っている。
1	全く計画どおりにできていない、又は一部不適切な管理運営が行われている。

評価ポイント	指定管理者による一次評価		所管部署による二次評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由
【施設の経営方針に関する事項】				
①施設の現状に対する考え方及び将来展望				
・施設の設置目的等を踏まえた現状認識及び今後の方向性が提案されている(確認事項11)				
・現状認識を踏まえた経営方針『「賑わい創出」から出会い、つながる『交流促進』へ』、に基づく仕掛けづくりができているか（確認事項11）	3	経営方針に基づき、魅力的かつ安全な活動を、指定管理者が一体となって推進した。文化芸術事業においては、計画より4事業多い89事業を実施し、鑑賞公演やイベント事業による賑わいを創出しただけでなく、子どもを対象とした公演鑑賞事業や活動支援事業、ワークショップ事業を開催し、子どもや子育て世代の文化芸術活動の機会を充実させた。また、市駅前図書館・生涯学習交流センターとのイベント連携を実施したことで、センターと参加した市民の交流を促進した。	3	現状認識を踏まえた経営方針に沿った事業・サービスを実施しており、計画どおりの適正な管理運営を行っている と判断できる。
・目標来館者数40万人以上を達成できているか（確認事項11）	4	来館者数：42万5,719人（目標比106%） 文化芸術事業参加者数が目標より12,598人多くなったことと、別館大型諸室の稼働率増による来館者数増により、年間の目標来館者数を上回った。	3	本館来館者数は減少しているものの別館来館者数は増加しており目標値以上の来館者数を達成していることから、計画どおりの適正な管理運営を行っている と判断できる。
・施設利用者の窓口対応満足度が目標の90%以上を達成できているか（確認事項11）	4	貸館利用者アンケートは、年間を通じて実施した。アンケート集計での窓口対応への満足度結果は、回答項目（満足、やや満足、普通）95.9%（目標より+5.9%）であった。	4	利用者アンケートでは丁寧な対応に満足しているという声が多く、実施結果からも計画以上の良好な管理運営を行っている と判断できる。

②施設運営に関する計画				
(ア) 施設運営全般に関する提案				
・関係法令及び本市条例・規則を遵守し、施設の設置目的に沿った運営計画が提案されている(確認事項13)				
・施設の設置目的に沿った運営計画を策定しているか（確認事項13）	3	設置目的を理解し、また、経営方針である「賑わい創出」から出会い、つながる「交流促進」と3つの活動指針を達成すべく、事業実施計画を策定している。また、労働関係、施設管理関係法令を遵守する運営計画としている。	3	施設の設置目的に沿った事業実施計画を策定し、その計画に沿った運営をしており、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・利用者が安全に利用できるよう施設内で発生するトラブルへの対応方法等について提案されている(確認事項14)				
・利用者等の安全・秩序維持のための適切な対応方法について提案されている(確認事項15)				
・トラブル未然防止に取り組み、発生時には迅速な報告と対処ができています（確認事項14・15）	3	トラブルは、対応フローに基づき一次対応を行い、困難な場合は館長、または副館長、もしくは当日責任者による報告・二次対応と、市に即時報告をしている。自主事業参加者の事故が1件発生したが、枚方市への迅速な報告と対処を行った。なお、施設運営に影響する事故・トラブルの発生は無かった。	3	トラブルの未然防止に取り組み、発生時には迅速な報告と対処ができており、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・利用者の安全利用・秩序維持のためのルールが周知できているか（確認事項14・15）	3	今期、利用の手引きを更新し、貸館利用団体に最新の情報を提供できるよう整えた。また、利用の手引きの貸館利用団体へ配布を行い、施設の利用方法とルールをわかりやすく周知している。加えて、利用前打ち合わせでの法令順守と安全に配慮したアドバイス・サポートを行い、利用後の現状復帰確認を徹底し、事故やトラブルの未然防止対策も講じている。	3	利用の手引きを更新してルールを周知したり、利用前後の打ち合わせや確認などで安全利用・秩序維持に努めたりしており、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・業務に従事する者の教育研修方針が提案されている(確認事項16)				
・業務に従事する者が、人権について正しい認識を持って業務を遂行できるよう、人権研修（ハラスメント研修を含む）について、提案されている(確認事項17)				
・スタッフの育成に関して、必要な知識とスキル、マインドを習得するための研修を実施しているか（確認事項16）	3	センター全スタッフの集合研修を6月に実施し、お互いの仕事を理解しあい、チームワーク醸成につながるワークショップを行った。また、スキルアップ研修や接遇研修を通じて、必要なスキルやマインドを習得し、利用者に寄り添う柔軟なサービス提供と安全・快適な施設管理運営につなげている。	3	必要な人材育成研修を実施しており、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・全スタッフを対象にした人権研修を実施しているか（確認事項17）	3	全スタッフを対象としたコンプライアンス研修・ハラスメント研修・人権研修をeラーニングによる実施も併せて、各社で実施した。	3	適切な研修を各社で行ったことを確認した。計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・利用者の開拓や訴求力の高い宣伝活動などについて、SNS等を活用するなど、多角的で効果的な方策により戦略的な広報を展開する提案となっている（確認事項18）				
・センター会員制度について、魅力的な提案となっている(確認事項19)				
・チケット販売業務について、WEB販売や窓口販売等において、サービス向上に関する提案がなされている（確認事項20）				
・情報の内容や対象ごとに効果的な広報ツールを活用できているか（確認事項18・19・20）	3	センター情報誌「H-Arts」を4回発行し、公演情報やイベント情報を発信した。また、広報ひらかたへの挟み込みによる全戸配布を4月・7月に実施し、多くの市民に情報を発信した。情報誌と合わせて、ホームページの情報更新、Xでの公演情報の配信、Instagram広告の活用、館内デジタルサイネージによる催事案内や主催公演、貸し公演の案内も行っている。市政情報モニターや枚方市のSNSも活用し、継続した宣伝広報を展開している。	3	センターホームページやSNS、デジタルサイネージによる案内、市広報紙での主催事業等の情報発信に加え、新たに交通系広告宣伝にも取り組んでおり、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・センターの利用率が低い子どもや子育て世代、若者に向けた積極的な広報活動が展開されているか（確認事項18・19・20）	3	子育て世代向けのセンター情報誌「Family H-Arts」を新設し、2回発行した。小学校～18歳までのお子様を無料招待する公演事業やファミリー向け事業と合わせて託児サービス、子育て世代向け館内設備などの情報発信を行った。また、未就学児向け1事業について、「まるっとこどもセンター」内デジタルサイネージでの情報配信も実施した。	3	ファミリー向け事業や託児サービス、館内設備などを紹介する「Family H-Arts」を新規発行するなど、子育て世代に向けた広報を展開しており、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・先行予約会員の登録者数が5年間目標で2万5000人以上を達成しているか（確認事項18・19・20）	4	先行予約会員は2万8,593人（目標比114%）が登録しており、目標を大幅に達成した。(年度内入会者数3,229人)センターでの公演鑑賞を希望する会員が継続して増えており、窓口や電話での丁寧な対応を行っていることで、チケット購入と来館機会が高まっていることを見込んでいる。	3	先行予約会員の登録者数が目標に達していることを確認した。計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・登録会員のデータを分析・活用し、チケット購入につながるデータマーケティングに取り組んでいるか（確認事項18・19・20）	3	登録会員に向けたメールマガジンの配信(35回)を行い、定期的な公演情報の提供によりチケット購入促進に繋げている。現会員の属性分布と公演チケット購入者分布との関係性を検証し、広報活動につながるよう取り組んだ。	3	登録会員に対し、メールマガジンの配信や登録会員のデータ分析・活用により購入促進につなげており、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・購入者の利便性に合わせたチケット販売チャネルが展開できているか（確認事項20）	3	自主媒体(窓口販売・電話販売・WEB販売)、プレイガイド販売、委託販売を行い、お客様が購入しやすい環境を整備している。	3	公演ジャンルに合わせた販売チャネルを各種設定しており、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・カフェ等運営業務について、営業時間を含め魅力的かつ持続可能な内容で、施設や地域の賑わいに寄与する提案となっている（確認事項21）				
・営業時間の柔軟な対応や季節メニューの展開、芝生広場との一体的な利用の促進など、センターの魅力の一つとしてカフェ運営が行われているか（確認事項21）	3	営業時間外の予約対応やコーヒーのケータリングサービス、楽屋等における利用団体へのお弁当やドリンク販売サービスを行うなど、柔軟にサービス提供を行っている。また、夏季に需要があるスイーツ・ドリンクの品ぞろえや、冬季は施設前広場などでのイルミネーション事業に合わせた品ぞろえを拡充し、利用者需要に合ったサービスを展開した。	3	ケータリングの要望などに適切に対応できているほか、季節に合わせたメニュー展開を実施しており、計画どりの適切な管理運営を行っていると判断できる。

(イ) 文化芸術事業全般に対する考え方				
・「枚方市文化芸術振興計画（改訂版）」の内容を理解したうえで、事業の考え方が提案されている(確認事項22)				
・本市の文化芸術の裾野を広げる観点、また、市駅周辺の賑わい創出や活性化の観点を的確に理解した考え方が提案されている(確認事項23)				
・自主事業、指定事業として毎年度、合計85事業以上を提案しているか(確認事項24)				
・文化芸術事業の専門知識や経験等が豊富な人材を、自主事業・指定事業を円滑に実施するに見合った人員で適正に配置されている(確認事項25)				
・あらゆる世代に、賑わいと交流を生む魅力的な文化芸術事業の企画運営ができていますか（確認事項22・23・24・25）	3	自主事業の企画では、音楽鑑賞、ミュージカル、演劇公演など子どもから大人までの幅広い世代に多彩なジャンルの公演を鑑賞する機会提供ができ、賑わいを創出できた。また、市民総合文化祭などの指定事業の企画では、多くの文化芸術団体や参加者が同じステージ・場所で同じ時間を共にし、交流する機会を創出できた。	3	鑑賞事業、地域連携事業、創造発信事業などにおいて、幅広い世代に向けた魅力的な文化芸術事業の企画運営ができており、賑わいと交流の機会を創出できている。計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・枚方市の文化芸術をけん引する市民協働・市民共創の積極的な機会を創出できているか（確認事項22・23・24・25）	3	市民同士が交流し、センターの事業に参画する機会として「子どもしセブシニストに挑戦！」「枚方シティオペラ2025 喜歌劇《こうもり》」「小・中・高校生を対象とした創作こども劇場」「市民と創る朗読劇」「ウィーンフォルクスオーパー交響楽団メンバーによるマスタークラス」「枚方市立総合福祉会館・枚方市社会福祉協議会との協働イベント『心のタネを咲かせよう』ワークショップ・作品展示」を実施した。	3	子ども・若者向けの参加型事業のほか、プロと舞台を創り上げる枚方シティオペラや社会福祉協議会との協働事業などを実施しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・子どもたちの夢の実現に寄与する若手支援・次世代の育成サイクルが構築されているか（確認事項22・23・24・25）	3	「大阪フィルハーモニー交響楽団の青少年のための公開リハーサル」「ウィーンフォルクスオーパー交響楽団メンバーによるマスタークラス」「創作こども劇場」「舞台制作スタッフ体験実習」を通じて、子どもまたは若い世代が文化芸術に触れる機会を多数創出した。また、若手アーティストによる「アーツブラウト」2事業や「京阪フレッシュアーティスト・リレーコンサート2026」の実施にて若手が活躍する場を創出した。	3	子どもや若い世代が文化芸術に触れる機会や、若手アーティストが活躍できる場を創出できしており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・事業を年間85本以上実施し、事業参加者人数年間5万人以上を達成できているか（確認事項22・23・24・25）	4	年間89事業を実施。事業参加者62,598人（目標比125％）。公演の特徴を踏まえて、適正なホールで実施したことにより、年間の目標参加者人数を上回った。	4	業務要求事項以上の事業数を実施するとともに、公演の特徴をとらえた上で実施するホールを調整するなど企画を工夫したことで目標を大きく超える事業参加者数を達成できしており、計画以上の良好な管理運営を行っていると判断できる。
・経験豊富な企画制作チーフを配置し、自主事業・指定事業を円滑に実施できる人員が適正に配置されているか（確認事項22・23・24・25）	3	企画力はもちろん、企画制作の全体統括、企画ごとの判断・交渉・折衝、担当者育成ができる業務経験年数が多い企画制作チーフを配置している。また豊富な企画制作経験を持つサブチーフを配置し、担当者の育成・組織力向上を推進し、企画制作業務の安定稼働を図っている。また、SPS本社の事業支援チームも、事業実施と担当者育成を支援し、専門性の高い事業は外部の専門人材活用も実施している。	3	経験豊富な企画制作チーフを配置し年間事業計画の作成や業務全般の管理監督を行っていることに加え、サブチーフを配置して担当者の育成・組織力向上を推進している。自主事業・指定事業を円滑に実施できる人員が配置されており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
(ウ) 自主事業に対する考え方				
・入場料の価格設定について、市民が鑑賞しやすく、かつ満席を目指すための明確なビジョンが示されたうえで提案されている（確認事項26）				
・各企画の適正価格と収支のバランスを考え、完売するための価格設定を分析し入場料金を決定しているか（確認事項26）	3	文化芸術の裾野を広げるための公演や親子向け公演など、育成や普及を主眼とする事業はできるだけ安価に価格を設定。鑑賞事業においては、類似事業の過去の実績や、同事業における過去公演の価格から市場価格を見極め、枚方における市民ニーズとのバランスを考慮し、適正な価格設定を行った。	3	各企画の適正価格と収支のバランスを分析した入場料金を設定しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・鑑賞事業の事業費に対する指定管理料の充当率が鑑賞事業全体で45％となっているか（確認事項26）	4	鑑賞事業29事業実施し、年間で38％（目標より9％改善）となり、達成した。	4	鑑賞事業の事業費に対する指定管理料の充当率が鑑賞事業全体で45％以下となっており、計画以上の良好な管理運営を行っていると判断できる。
・枚方市の魅力や交流人口の増加、賑わいの創出に資することができる国内外の著名なアーティストを招聘した目玉公演の企画・実施について、明確なビジョンが示されている（確認事項27）				
・特別公演について、枚方市民が誇りを持って、市内外の認知度向上にも寄与する事業を市民ニーズも踏まえバランスよく実施できているか（確認事項27）	3	国内外で活躍する指揮者・原田慶太楼、ヴァイオリニスト・HIMARIと「読売日本交響楽団」によるオーケストラ公演のほか、寝屋川出身のアーティスト「PUFFY」によるポップス公演、また今もとても人気の高いミュージカル歌手5名を迎えた「ミュージカル・ガラ・コンサート」を実施し、市民だけでなく、市外からの鑑賞者も多く迎え、センターの魅力を伝えることができた。	3	国内外で活躍する様々なジャンルの著名アーティストを招聘した公演を実施したことで市民はもちろん市外からも多くの鑑賞者が訪れており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・幅広い分野で質の高い鑑賞事業を実施することに対して明確な考え方が示されている（確認事項28）				
・鑑賞事業について、多様で上質な文化芸術を堪能できる機会が創出できているか（確認事項28）	3	「大阪フィルハーモニー交響楽団」や「ウィーン少年合唱団」、世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルのメンバーによる「ベルリン八重奏団」、人気ヴァイオリニストによる「ドス・デル・フィドル」、「0歳からの親子クラシックコンサート」等のクラシックに加え、「ブルーノート東京オールスター・ジャズ・オーケストラ」や「カキンツハルカ」、「劇団四季」、「落語」公演など様々なジャンルの公演を実施し、あらゆる世代のニーズに合わせた事業を実施した。	3	クラシックやポップス、ミュージカル、伝統芸能など幅広いジャンルの文化芸術を鑑賞できる機会を提供している。また0歳から高齢者まで年代の偏りがなく楽しめるような幅広い事業を展開できしており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・鑑賞事業について、子どもや子育て世代、若年層の支援や育成の観点から、助成金等を活用した鑑賞の場の提供、託児サービスの実施などに積極的に取り組んでいるか（確認事項28）	3	子育て世代の鑑賞支援を目的とした託児サービスを全5公演で実施告知し、うち「劇団四季ファミリーミュージカル」、「大阪フィルハーモニー交響楽団」で3組の申込みがあった。文化庁の「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」は2公演の採択により、「三浦文彰×清水和音 デュオ・リサイタル」は同伴者含む153名、「宮田大 & LEOデュオ・リサイタル」は同伴者含む119名が鑑賞した。	3	新たに託児サービスを開始したほか、文化庁の補助金を活用し子どもが無料で鑑賞できる事業を実施するなど、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。

・市独自の良質な音楽事業や舞台芸術作品の制作についてのアイデアが提案されている（確認事項29）				
・創造発信事業について、共に一つの芸術作品を作り上げるプロセスを通して世代間の交流を促進できているか（確認事項29）	3	「枚方シテリオペラ2025」ではプロの演奏家と公募による合唱団が喜歌劇《こうもり》を開催。20代から80代までの合唱団員が計10回の練習を重ね、本格的なオペラを創り上げ、世代間の交流を促進した。 「市民と作る朗読劇」事業では、わかぎゑふ氏のプロデュースにより、申込希望者数83名のうち30名の市民が朗読劇に挑戦し、小ホールにて最終成果発表を行った。	3	枚方シテリオペラやわかぎゑふプロデュースの朗読劇では幅広い世代の市民が参加し、プロと共に一つの芸術作品を創り上げるプロセスを通した世代間交流ができており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・若手アーティストの育成や次世代育成事業に対して明確な方向性が示されている（確認事項30）				
・若手支援・次世代育成成型事業について、各世代ごとに様々なアプローチで文化芸術の育成サイクル構築に取り組んでいるか（確認事項30）	3	「子どもレセプションистにチャレンジ！」や「創作こども劇場」、「青少年のための公開リハーサル」にて小学生が様々な形で参加できる機会を創出したほか、「ウィーンフォルクスオーバー交響楽団メンバーによるマスタークラス」や「京阪フレッシュアーティスト・リレーコンサート」、「大阪府高等学校演劇研究大会府大会」では舞台に立つ機会を高校生以上に提供した。枚方市のアーティストバンク登録者による「アーツブラウト公演（山下彩恵、La Mer）」、「舞台制作スタッフ体験実習」も行い、様々な切り口で音楽・舞台芸術に触れる取り組みを行い、文化芸術の担い手の支援・育成を推進した。	3	枚方にゆかりのある若手アーティストの発表の場である「アーツブラウト」シリーズや「子どもレセプションистにチャレンジ！」のほか公開リハーサルやマスタークラスを実施するなど、様々なアプローチで文化芸術の育成サイクル構築に取り組んでおり、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・社会包摂事業について、障害・年齢・家庭の状況などの理由により一定の配慮が必要な方が参加しやすい事業展開の考え方が示されている（確認事項31）				
・社会包摂事業・普及事業について、障害の有無だけでなく国籍・境遇の異なる方にも範囲を広げた事業が推進できているか（確認事項31）	3	「兄ーズピアノ・ランドみんなの音楽会」では手話通訳やヒアリング・ループ席、車椅子スペースの拡充など鑑賞サポートを充実させた。科学の楽しさを体験できる「でんじろう先生のドキドキわくわくサイエンスショー」や、地域の歴史を身近に感じる講演会「ぶらり街道めぐり」など、多様なアプローチで事業を展開するほか、乳幼児と参加できる「ベビーダンス」や社会福祉協議会と連携した「ペイント・アートイベント」など、国籍や境遇の異なる方も参加できる事業を推進した。	3	障害の有無にかかわらず楽しめるよう鑑賞サポートを充実させた「兄ーズピアノ・ランドみんなの音楽会」を実施したほか、これまでホールに來たことのない人も参加しやすい「でんじろう先生のドキドキわくわくサイエンスショー」や「ベビーダンス」を実施するなど境遇の異なる方にも範囲を広げた事業を推進しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・諸室(別館施設を含む)や広場を活用した、広がりのある事業展開についての考え方が提案されている（確認事項32）				
・ワークショップ事業について、市民の積極的な文化芸術活動始動のきっかけを提供できているか（確認事項32）	3	小学生から参加できる対話型事業「アートでおしゃべり〜キミはどう思う？〜」や、「石材を使ってランプシェードを作ろう！」、「DJみそしるとMCごはん コドモラップワークショップ」を実施し、音楽・舞台芸術などのジャンルを超えた参加事業を提供した。	3	美術や芸術、ラップといった多様なジャンルのワークショップ事業を実施することで、市民の積極的な文化芸術活動始動のきっかけを提供できている、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・諸室活用事業について、施設前広場や別館施設等を活用して、交流を促進し、地域の活性化につなげる取り組みが実施できているか（確認事項32）	3	「第14回ひらかた社協ふくしフェスティバル」では施設前広場の活用により地域の活性化を生み出したほか、「言葉のアートにチャレンジ！短歌・俳句を詠んでみよう！」は別館の多目的室で実施することで、市民を別館へ誘導し施設の認知につなげた。	3	施設前広場や別館諸室を活用し、地域の活性化につなげる取り組みを実施しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・地域連携事業について、枚方市駅周辺エリア等との連携を促進しているか（確認事項32）	4	「H-Artsフェスタ」において市駅前図書館・生涯学習交流センターと連携し、謎解きイベントの館外チェックポイントを両施設に置くことで市民が行き来できるよう企画したほか、絵本の広場、おはなし会を新たに実施した。その後も、こども向け事業の特設コーナーを図書館に設置いただくなど連携を促進した。	4	「H-Artsフェスタ」において市駅前図書館・生涯学習交流センターと連携した新たな取り組みを実施した。絵本の広場やおはなし会でH-Artsフェスタ来館者に楽しんでもらうだけでなく、施設の行き来を促す工夫を企画・実施するなど、新規利用者の増加やセンターの認知度向上につながっており、計画以上の良好な管理運営を行っていると判断できる。
・美術事業について、美術とのコラボレーションを生み出す新たな事業の展開ができていますか（確認事項32）	3	市所蔵作品 版画作品展〜秋野玄左衛門・前田藤四郎 二人展〜では、美術ギャラリーの空き期間を活用し、枚方市との共催で市の所蔵作品の展覧会を開催した。 「木之下晃 音楽写真展」では、国内外の著名演奏家を中心にした写真を展示し、同時期に実施する指定事業との連携を図った。	3	「木之下晃 音楽写真展」では、枚方ゆかりの音楽家として五嶋みどり氏や朝比奈隆氏のコーナーを設けたり、開催期間をミュージック・シェアリング・フェスティバルと合わせることで事業との関連性を高めたりと、工夫を凝らした企画展開ができており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
(工) 指定事業に対する考え方				
・市内の文化芸術関係団体と良好な関係で事業を実施できる環境が整っている(確認事項33)				
・各指定事業について、交流促進を実施することで、文化芸術活動がより活発に実施されるよう支援できているか（確認事項33）	3	「市民総合文化祭」では、市内の各文化芸術関係団体との良好な関係のもと、団体からの協力を得て実施した。また「第5回枚方市展」「第28回ひらかた工芸展」「枚方の美術家展vol.5」事業をつづいて、枚方市の文化活動をより推進した。	3	市民総合文化祭においては市内の文化芸術関係団体と、美術事業においても各関係団体と良好な関係を築き交流を促進しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・市民の文化芸術活動の発表の場としての役割を理解しているか(確認事項34)				
・市民とセンターのつながりを、市民同士・市民団体同士に広げ、活発な交流を促しているか（確認事項34）	4	「市民総合文化祭」では、市内の各文化芸術関係団体の協力のもと、幅広い市民に広報を展開し、昨年より参加団体を大幅に増加させた（舞台部門：11団体増、短歌俳句の部：42名増、展示部門：2名増）。また、来場者は昨年より1,481名増加し、市民とセンター、市民同士・市民団体同士のつながりをさらに広げる機会となった。	4	市民総合文化祭において、時間的制限のある中、設営・撤収などの工夫により参加団体数および来場者数を増加させ、市民とセンター、市民同士・市民団体同士のつながりを広げており、計画以上の良好な管理運営を行っていると判断できる。
・指定事業の特徴的事業をあげ、より発展した場となるよう課題を抽出し改善点案を通じて市民の文化芸術活動がより活発に実施されるよう支援をしているか（確認事項34）	3	「市民総合文化祭」では、来場者や市民出演団体が増加するよう、協力団体と毎年課題を捉え、改善を図っている。今期は、前年までの事前申込制から事前予約を不要としたことで、市民が来場しやすく、また出演者にとってもご家族や知人を誘いやすい環境を整え、来場者の増加につなげる結果にいたった。	3	市民総合文化祭において、発表ジャンルの整理を行いより参加しやすく工夫するなど、市民の文化芸術活動が活発に実施されるよう支援できている、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。

（オ）施設の貸出等に関する業務の提案				
・施設稼働率の目標水準が達成されるような提案がされている(確認事項35)				
・利用者に対する接遇対応向上について提案されている(確認事項36)				
・セルフモニタリング及び利用者等に対するアンケートの実施について提案されている(確認事項37)				
・施設の貸出に関する業務を適正かつ効率的・効果的に遂行できる人員が適正に配置されている(確認事項38)				
・施設を利用して文化芸術活動を行うための専門的な相談（舞台・広報等）を受け、適切に助言するための体制が提案されている(確認事項39)				
・枚方市総合文化芸術センター条例、同条例施行規則を遵守し、すべての利用者にとって公正、公平な施設の貸し出しを実施できているか（確認事項35・36・37・38・39）	3	枚方市総合文化芸術センター条例、同条例施行規則を遵守した申請・使用料收受事務を行っている。また、利用の手引きを更新し、すべての利用者に最新の情報を提供するとともに、公正、公平な施設貸し出し業務を行っている。	3	枚方市総合文化芸術センター条例、同条例施行規則を遵守した申請・使用料收受事務を行うとともに、すべての利用者にとって公正、公平な施設の貸し出しを実施しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・各施設の目標稼働率を達成できているか（確認事項35・36・37・38・39） 《施設稼働率目標水準》 本館：各ホール75%以上、美術ギャラリー80%以上、 その他施設平均60%以上 別館：各施設平均50%以上	3	大ホール80%、小ホール80%、イベントホール86%、美術ギャラリー87%、本館その他施設平均50%、マルチスペース、別館各施設平均44%（メセナホール59%、大会議室51%、リハーサル室275%）となり、一部達成となった。昨年開館した近隣施設による別館会議室稼働への影響はあるものの、丁寧な案内と柔軟な下見対応、希望される催事への具現化に向けたサポートを実施し、令和6年度と比べて稼働率がそれぞれ本館その他施設+1%、別館各施設+3%と上回った。	2	大・小・イベントホール及び美術ギャラリーについては目標を達成している。本館その他施設ならびに別館各施設については、稼働率向上の努力はみられるものの目標達成には及んでおらず一部計画どおりにできていないものの、概ね適切な管理運営を行っている。 引き続き、丁寧な対応で予約につなげ、利用促進・稼働率向上に取り組まれることを期待する。
・利用促進・稼働率向上のための営業活動や、利用者へのサポートに取り組んでいるか（確認事項35・36・37・38・39）	3	当センター利用の興行主催者に積極的な貸出提案を行い、施設利用実績、ならびに著名なアーティストが出演する貸し公演の開催につなげた。また、ホール・諸室・美術ギャラリーは随時下見対応を行い、ホールは貸館下見会を月2回、舞台技術スタッフによる催事内容相談見学会を3月に1回、それぞれ開催し、催事や利用内容の具現化につながる丁寧な案内を実施している。特にホールと美術ギャラリーにおいては、細やかな実施提案を受付スタッフと舞台管理スタッフから対面・メール・電話で、積極的に行っている。	3	興行主催者に対し営業活動を行ったほか、下見会や見学会も定期・随時実施し、利用促進・稼働率向上に繋げており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・利用者に対する接遇力向上のための取り組みとして、各種研修を実施しているか（確認事項35・36・37・38・39）	3	利用者が快適に施設を利用できるように、スタッフが休館日研修でのサービススキル・マインド研修やチームビルディングワークショップ、貸出ルール勉強会、コミュニケーション力向上研修、接遇研修を通して、豊富な知識と提案スキル向上を図った。	3	職員に対し、利用者目線に立った様々な研修を受講させることで利用者に対する丁寧な接遇につなげられており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・各種セルフモニタリングを実施し、結果を現場に反映させているか（確認事項35・36・37・38・39）	3	施設利用者アンケートや、主催公演来場者アンケート、本社コンプライアンス部門による業務品質チェックを行い、利用団体の要望・指摘を収集するとともに、業務フロー・執務環境課題についてスタッフ全員で共有・改善を行っている。	3	セルフモニタリングを実施できており、結果については指定管理者間で適宜共有を図り、施設利用者のニーズに答えるなど適正な取り組みを行っている。
・本館と別館を一体的に運営し、効率的に遂行できる人材を窓口・舞台とも適正に配置しているか（確認事項35・36・37・38・39）	3	受付スタッフを適正に配置し、本館・別館の利用受付や問い合わせ対応をするだけでなく、利用者の要望を丁寧に聞き取り、本館・別館施設から最適な提案を行っている。また、舞台技術スタッフは施設の特性を熟知し、利用者が計画した催事に合わせた説明・提案ができるスタッフを適正に配置し、利用者の満足度を高めている。	3	本館と別館を一体的に運営し、効率的に遂行できる人材を窓口・舞台とも適正に配置しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・利用者の利便性向上のため、音響・照明・録音等の専門スタッフの手配代行等の利用者サポートができているか（確認事項35・36・37・38・39）	4	利用者の希望する催事の具現化に努め、豊富な技術・知識を有した専門スタッフの配置ができる体制をつくり、舞台業界での人員確保が難しい中、希望どおりの催事ができるスタッフ手配を全件行った。また、センターの舞台を熟知し、十分な知識とスキルを兼ね備えた舞台技術スタッフが、丁寧に利用者サポートを行っている。	4	関西圏のアリーナ新設等による業界的な人材不足の中で舞台専門スタッフの配置に尽力し、利用者からの急な要望へも対応するなど、利用者の利便性向上のためのサポートを丁寧にっており、計画以上の良好な管理運営を行っていると判断できる。
【施設の管理に関する事項】				
①施設管理全般に関する提案				
・関係法令及び本市条例・規則を遵守し、施設の設置目的に沿った管理計画が提案されている(確認事項40)				
・施設の管理に関する業務を適正かつ効率的・効果的に遂行できる人員が適正に配置されている(確認事項41)				
・建築設備全般に係る点検・保守を適切に実施し、機能保全・利用者への安全、快適な環境が提案されている(確認事項42)				
・施設の安全性確保に関する基本的な考え方について、本館・別館の施設特性を理解し、幅広く多様な来館者に安全・安心・快適な環境を提供できているか（確認事項40・41・42）	3	共同事業体3社で施設管理に関する会議（施設維持管理会議）を毎月実施し、日常運営での状況共有をはじめ、施設の不具合状況や中長期を含めた施設の維持管理状況の共有を行っている。各グループが連携して来館者への安全・安心・快適な環境提供している。	3	指定管理者内で適宜共有し連携しながら来館者に安全・安心・快適な環境を提供しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・施設の安全確保に関する基本的な考え方について、関係法令・仕様業務基準を遵守し、正しく、最適な施設管理を行っているか（確認事項40・41・42）	4	関係法令及び仕様業務基準を遵守し、これまでの実績で集積した維持管理のデータ、知見を活用し、日常業務・定期業務とその管理を遅滞なく実施している。また、設備・備品の不具合発生を未然に防ぐ計画的な予防保全を主体とし、不具合が発生した場合も即時対応を行い、施設運営に影響が出ないように努め、最適な施設管理を行っている。本館は5年目に入り、計画以上のホール高稼働と来館者増にともなう不具合が生じているが、細やかな日常保守点検を遂行し、微細な不具合や検針数値のわずかな異常も見逃さず、即時措置を行い、専門業者も含めた改善対応の徹底を図っている。また、別館においても同様に遂行し、施設保全と適切な施設管理を両立している。	3	関係法令、仕様書等を遵守し、最適な施設管理を行っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・本館・別館の施設の一体管理による効率的な人員配置ができているか（確認事項40・41・42）	3	本館・別館の施設特徴を知り尽くしたスタッフを本館に配置し、本館・別館の定期巡回・現地確認・対処を行うなど、2館一体管理による効率的な人員配置を行っている。	3	本館と別館での設備点検の実施や、警備員の巡回配置方法など2館で連携した体制を整えており、効率的な運営を行っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。

	・予防保全の取り組みとして、ITによる計画的な施設の長寿命化に取り組めているか（確認事項40・41・42）	3	ASP（施設支援システム「FM EXP」）を活用し、適切な設備保守と更新を行うなど、センターを熟知した設備管理スタッフの対応とデジタルによるLCC（ライフ・サイクル・コスト）の最小化と施設の長寿命化を推進している。	3	システムを活用しながら設備機器の管理を行うなど、計画的な施設の長寿命化に取り組んでおり、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
	・予防保全の取り組みとして、安全を第一に考えた舞台の維持管理ができていますか（確認事項40・41・42）	3	豊富な技術・知識を有し、センターの舞台を熟知している舞台技術スタッフが、目視や使用具合をもとに日常的に行う保守点検と、機材等の知識を有する専門業者が測定機等を用いて定期的に行う精密点検を行い、舞台維持管理を行っている。また、中長期の舞台維持管理について、市と調整し推進している。	3	経験豊富な舞台技術スタッフを配置して日常・保守・定期点検を行っており、安全を第一に考えた舞台の維持管理ができています。中長期の舞台維持管理についても市と調整して推進しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
	・定期点検は適切な頻度で実施し、不具合発生箇所を早期発見し、重要な機器故障を未然に防ぐことができていますか（確認事項40・41・42）	4	これまでの機材使用頻度や舞台の稼働率、催事内容より、定期点検を適切な時期に実施することで、不具合発生箇所を早期に発見し、機器故障を未然に防ぐ措置を行っている。また、定期的に更新が必要な機器は市へ連絡・調整を行い、貸館と施設運営に影響が出ないよう修繕を実施している。 高度処理水停止に伴う給水確保等の問題を関係者と協議し、水槽の運用や給水用電極位置調整などを行う事により安定的に施設が運用できるよう対策を行った。また、植栽の立枯れや排水不良などを経て樹木医による原因調査を行い、管理手順の見直しや植樹の提案を行い緑化の維持管理に努めた。また、施設前広場のシロツメクサ対策として年二回の除草剤散布とサッチングを一回、毎日手抜き作業を行った結果、良好な景観となった。	4	定期点検について適切な間隔で実施され、不具合箇所についても早期発見や未然防止に取り組んでいる。さらに、高度処理水停止に伴う給水確保等の問題のほか、施設前広場の課題である植栽について樹木医調査や雑草対策など丁寧な管理を行っており、計画以上の良好な管理運営を行っていると判断できる。
	・安全な施設環境づくりのために、施設の安全・安心な警備対応ができていますか（確認事項40・41・42）	3	施設不具合や迷惑行為などに対しては、警備スタッフをはじめ、清掃・設備管理スタッフなどセンター全員が早期発見と一次対応を行い、安心・安全な施設環境づくりに努めている。また、大型催事開催時には府道京都守口線「ラポール枚方前」交差点付近における交通誘導警備員を配置し、利用者誘導の実施と安全の確保に努めている。また、状況により夜間別館出入口付近の巡回警備強化なども努めている。	3	警備スタッフをはじめセンター職員全員が安心・安全な施設環境づくりに努めている。また、大型催事開催時には交通誘導警備員を配置するなど、施設の安全・安心な警備対応ができており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・備品管理に当たり、管理簿の整備及び責任所在について提案されている(確認事項43)					
	・備品維持管理業務に対する基本的な考え方について、備品維持管理計画を策定し、物品管理簿を備えて適切に管理ができていますか（確認事項43）	3	備品の長期修繕計画や物品管理簿を市と共有し、市の立ち会いによる実地確認も受けながら備品を適切に管理している。また保守点検が必要な備品は適当、かつ適切に実施している。備品に不具合が発生した場合は、市に報告・協議・修繕を行っている。	3	物品管理簿に基づき、不具合が発生したものについては市と連携を取るなど、適切な物品ができており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
	・備品維持管理業務に対する基本的な考え方について、備品の特性に合わせた維持管理を行い、楽器等の特殊備品は専門的知識に基づいた維持管理を行っているか（確認事項43）	3	専門的な知識を持った舞台技術スタッフが維持管理を適切に行うとともに、楽器類については専門業者による保守点検も行っている。	3	楽器の維持管理について専門業者による保守点検を行っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
②環境への配慮に関する提案					
・施設内で生じた廃棄物の適切な一時保管、搬出、処理の提案がされている(確認事項44)					
・環境に配慮した管理運営を目指し、ごみの削減、節電・省エネルギー等の取組が提案されている(確認事項45)					
	・施設内で生じる廃棄物について、法令に基づいた適切な取り扱いが徹底できていますか（確認事項44）	3	ゴミの分別をわかりやすく表記、ルールの設定を行い、ごみ減量につなげつつ、適切な処理を行っている。また、産業廃棄物は管理者を定め、一時保管後、法令に基づき適切に処理します。	3	施設内で生じる廃棄物について法令に基づき適切に処理しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
	・持続可能な目標（SDGs）の達成に向けて、省エネ・省資源対策やスタッフへの意識づけに取り組んでいるか（確認事項45）	3	利用者の快適性を維持すると同時に、空調機器の運転時間・設定温度の適正化を推進するなど省エネ・省資源に努めている。	3	空調機器の運転時間・設定温度を適正に設定するなどし、省エネ対策を行っている。また、スタッフへの意識付けとしてeラーニングを受講するなど、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
【情報公開及び個人情報保護の措置に関する事項】					
・枚方市情報公開条例の目的等を踏まえ、管理運営事業で保有する情報の公開に関する対応が明確に示されている(確認事項46)					
	・センターの情報を提供することにより公正で開かれた施設となっているか（確認事項46）	3	公演情報や貸館にかかる情報、営業に関する情報を情報誌H-Artsやセンターホームページ、Xを活用して、情報が広く行きわたる広報に努めている。	3	情報誌やホームページ、Xを活用して積極的に情報発信を行っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
	・開示請求等に応じる手続き方法を明確にし、情報開示請求があった際には適正に対応しているか（確認事項46）	3	センターが保有する個人情報データに関する開示請求等に応じる手続きについては、プライバシーポリシーの一項目として、センターホームページに明記している。また、開示請求があった場合には、適切に対応できる体制を構築している。	3	開示請求に対応できる体制を構築しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・個人情報保護法及び関係法令の目的等を踏まえ、個人情報の保護に関する必要な措置について明確に示されている(確認事項47)					
	・個人情報の取扱いとして「個人情報保護法」を遵守し、適正・適切な管理を行っているか（確認事項47）	3	センターで取り扱う個人情報及び個人データについて、作業従事者を特定し、法令遵守のもと適正かつ適切な管理を実施している。	3	個人情報保護法に基づき、施設で発生する書類などを適切に管理しており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
	・個人情報の保護に関する必要な措置について適切に行えているか（確認事項47）	3	個人情報保護法第 23 条に則し、「情報セキュリティガバナンス規程」等の整備や個人情報台帳の作成・組織的管理（組織的安全管理措置）、プライバシーポリシーの設置や情報セキュリティ研修実施（人的安全管理措置）、施錠のできるキャビネット内保管や業務パソコン等の機器・装置の固定・部屋の施錠（物理的安全管理措置）、ネットワークの独立性を確保（技術的安全管理措置）を行っている。	3	総合文化芸術センターでのプライバシーポリシーを定めホームページで公開しているほか、個人情報台帳の作成、施錠キャビネットでの保管、ネットワークの独立性確保など必要な措置を適切に行っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。

【緊急時における対策に関する事項】				
・緊急時・防犯・防災対策の危機管理マニュアル作成等が提案されている(確認事項48)				
・緊急事態発生時又は発生が予測される場合における常時連絡可能な体制・方策が提案されている(確認事項49)				
・構成員間（本支社間含む）、市との間におけるリスク分担に対する考え方が明確に示され、かつ考え方に対応した分担内容となっている(確認事項50)				
・危機管理に関する基本的な考え方について、来館者の安全配慮と徹底した事前準備ができているか（確認事項48・49・50）	3	様々なリスクを想定し、防止策を日常業務や定時業務の中で検討・講じている。また、発生時の対応策も検討し、有事の際に利用者の安全を確保する準備を行っている。	3	様々なリスクや、発生時の対応策を検討するなど、来館者の安全配慮を行っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・危機管理に関する基本的な考え方について、災害時の危機管理体制が構築されているか（確認事項48・49・50）	3	危機管理・応急措置マニュアルや設備監視体制を整えるなど共同事業体間で緊急時の体制について共有し、有事の際に対応できるように人員体制を整えている。また、指定管理者内で緊急連絡網を定め、万が一責任者が不在であっても対応できる体制を整えている。	3	危機管理マニュアルを作成し、有事に対応できる体制を整えており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・緊急時や防犯・防災の取り組みとして、危機管理マニュアルの整備と周知を行っているか（確認事項48・49・50）	3	危機管理・応急措置マニュアルを整備し、職員間で研修を通じて周知し、有事に備えている。	3	危機管理マニュアルを作成し、職員間で共有を図っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・緊急時や防犯・防災の取り組みとして、設備監視体制が構築されているか（確認事項48・49・50）	3	緊急時に適切な対応が取れるように、設備監視体制を構築している。	3	設備監視体制の構築が図られており適切な対応を行っている。計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・緊急時や防犯・防災の取り組みとして、防災訓練、心肺蘇生法講習会などを実施しているか（確認事項48・49・50）	3	6月実施の防災訓練にて、避難経路や車いす利用者への誘導方法の確認を行った。また、2月実施の防災訓練にて、AED講習会などの研修を実施した。	3	防災訓練や適切な講習会を行っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・緊急時の体制として、明確な役割分担や指揮系統を一元化した体制フローが確立されているか（確認事項48・49・50）	3	役割分担を明確にし、対応を迅速に行う緊急時体制フローを構築している。館長に情報を一元化し、必要な指示は担当グループごとへ直接連絡している。	3	緊急時の体制の構築が図られており適切な対応を行っている。計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・市と指定管理者との間におけるリスク分担表を理解し、誠実に対応しているか（確認事項50）	3	緊急時の枚方市とのリスク分担、共同事業体間のリスク分担、共同事業体内の連携と代表企業内の業務分担を明確にし、それぞれの責務を担い、誠実に対応している。また、想定されるリスクに対し、各種保険に加入し、対応に備えている。	3	リスク分担表に基づき協議の上対応していることから、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
【その他】				
・利用者サービスを維持・向上させる具体的な取組について提案されている(確認事項51)				
・地域や事業者等と連携し、センターやまちの魅力向上への寄与についての考え方が示されている(確認事項52)				
・市が実施する事業に対する協力やコミュニケーションを活発にする連絡体制等、市と積極的に連携・協力する姿勢が見受けられる(確認事項53)				
・施設のバリアフリー化を推進する取り組みとして、サービス介助士資格取得の推進に取り組んでいるか（確認事項51）	3	新たにサービス介助士資格取得者2名。また、直接お客様と接するスタッフに、お客様理解を深め、日々の考動を振り返るとともに、運営面を見直すワーク研修を実施した。	3	新たにサービス介助士資格を取得するなど、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・施設のバリアフリー化を推進する取り組みとして、DX活用の推進に取り組んでいるか（確認事項51）	3	総合受付にタブレット端末と筆談器を導入している。また、様々な方に不自由なく施設を利用できるアプリケーションの実用化に向けて整備を進めている。	3	利便性向上のため、利用者目線に立ったDXを活用したサービスを市等と調整を行っており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・センターの資源を活用し、文化芸術をキーワードにした地域連携により市駅周辺エリア全体で誘客・回遊効果を生み出す取り組みができているか（確認事項52）	3	H-Artsフェスタにおいて、市駅前図書館・生涯学習交流センターとの連携企画を実施。センターと両施設を行き来し参加者が市駅周辺を回遊する事業とした。また、12月シーズンプロモーションとして、クリスマスイルミネーションを本館に設置し、夜間の演出を行い回遊効果に寄与した。	3	H-Artsフェスタでは市駅前図書館・生涯学習交流センターと連携した企画を実施することで市駅周辺の回遊を促す取り組みができおり、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・鑑賞チケットサービスについて、協力店舗数が5年間目標で30店舗以上を達成しているか（確認事項52）	3	協力店舗は18店舗（昨年末より+5店舗）となった。30店舗以上に向けて営業活動を継続する。	3	新しくオープンした枚方モールへの営業により新たに5店舗が新規加入するなど協力店舗数の増加に取り組んでおり、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。
・市が実施する事業に対する協力やコミュニケーションを活発にする連絡体制等、市と積極的に連携・協力する姿勢が見受けられるか（確認事項53）	3	毎月実施している市との管理運営定例会や企画・広報・修繕部会では、各事業における進捗をはじめ、発生している課題の報告と改善案を共有するなど、双方の意思疎通を図っている。また、協議事項は協議録を取り、滞りの無い施設運営につなげている。また、所管課の各会議体及び地域連携の協議体等へ出席し、枚方市が実施する事業や文化情報の発信内容とセンターの情報発信を連動させるよう努めている。	3	毎月、市と指定管理者間で定例会や企画広報会議を実施していることや、必要時には迅速に問い合わせに対応するなど連絡・協力する姿勢が見られており、計画どおりの適切な管理運営を行っていると判断できる。

指定管理者による一次評価 平均点	3.1	所管部署による二次評価 平均点	3.1
------------------	-----	-----------------	-----

評価項目 1 (1)の評価基準		
S	事業計画における提案以上に、良好な管理運営を行っている	二次評価の平均点が4点以上
A	事業計画に則した適切な管理運営を行っている	二次評価の平均点が3点以上4点未満
B	事業計画の履行において一部努力が必要だが、概ね適切な管理運営を行っている	二次評価の平均点が2点以上3点未満
C	事業計画の履行において、抜本的な管理運営の改善が必要	二次評価の平均点が2点未満 または「1」の評価があり、かつ、その理由が重大な内容である場合

評価項目 1 業務の履行状況（1）選定時の基準（確認事項）・事業計画の内容（目標）に関する事項の評価（所管部署）	A
--	---

(2) 施設の管理運営に関する経費の収支状況（使用料の収入実績を含む）

評価ポイントごとの評価基準	
○	適正（適切）である
△	一部改善が必要であるが、概ね適正（適切）である
×	不適正（不適切）である

評価ポイント	指定管理者による一次評価		所管部署による二次評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由
・収支予算書と比較して収入額が大幅に減少していない。／大幅に減少している場合、その理由が妥当で、今後安定した収入を得られる見込みがあるか。	○	適正に実施している。	○	適正であることを確認した。
・収支予算書と比較して、想定外に多く支出している費目がない。／想定外に多く支出している費目がある場合、その理由が妥当で、今後、予定外の支出が発生するおそれがないか。	○	適正に支出している。	○	適正であることを確認した。
・運用資金の借り入れを行っていない。／借り入れを行っている場合、その理由が妥当か。	○	行っていない。	○	借り入れを行っていないことを確認した。
・口座管理、つり銭等の現金管理は適正に行われているか。	○	適正に行っている。	○	適正に行っていることを確認した。

評価項目1 業務の履行状況（2）施設の管理運営に関する経費の収支状況の評価（所管部署）	A
---	---

評価項目 1 (2)の評価基準		
S	全ての項目が適正（適切）であり、かつ、特に優れた点が見られる	全ての項目が○、かつ、特に優れた点が見られる
A	全ての項目が適正（適切）である	全ての項目が○
B	一部改善が必要であるが、概ね適正（適切）である	△が1個以上
C	不適正（不適切）な点があり、直ちに改善を求める	×が1個以上

(3) 募集要項・仕様書記載事項等に関する事項

評価ポイントごとの評価基準	
○	適正（適切）に実施している。
△	一部改善が必要であるが、概ね適正（適切）に実施している。
×	実施していない、又は不適切な点がある

評価ポイント	指定管理者による一次評価		所管部署による二次評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由
・募集要項3ページに記載している再委託禁止に関する事項を遵守し、市の承認手続きが適切に行われているか。	○	遵守し、適正に行っている。	○	遵守し、適正に行っていることを確認した。
・指定管理業務に伴い発生する経費及び収入を、指定管理者が他の事業等で利用する口座とは別の口座で管理しているか。	○	別口座で管理している。	○	適切に口座管理していることを確認した。
・個人情報保護法等の関係法令に基づき個人情報保護に関し必要な措置を講じているか。	○	必要な措置を講じている。	○	必要な措置を講じていることを確認した。
・労働基準法等の労働関係法令を遵守しているか。	○	遵守している。	○	遵守していることを確認した。
・職務の執行に対する意見、要望等の記録等に関する条例に基づき記録等の対応を行っているか。	○	条例に基づき対応している。なお、職務の執行に対する意見、要望等の記録に該当するものはなかった。	○	条例に基づき対応していることを確認した。
・指定管理者が業務に伴って作成し、又は受領した文書等に関し、文書管理に関する規定等を定め、適正に管理・保存しているか。	○	文書管理に関する規定等を定め、適正に管理・保存している。	○	適切に管理・保存していることを確認した。
・募集要項12ページに記載している「環境への配慮」が適切に行われているか。	○	適切に行っている。	○	公演時以外については、使用していない諸室の電気や冷暖房の停止をこまめに行うなど、適切に行っていることを確認した。
・適切な保険に加入しているか。	○	加入している。	○	公立文化施設賠償責任保険など、適切な保険に加入していることを確認した。
・指定管理者名と設置者としての市の連絡先を施設内に表示するとともに、利用料金表等に明記しているか。	○	表示、明示している。	○	表示、明記していることを確認した。
・募集要項13ページに記載している障害者差別解消に関する取り組みが行われているか。	○	指定管理者各社の障害者法定雇用率については以下のとおり。 サントリーパブリシティサービス(株)2.74% 京阪ビルテクノサービス(株)2.85% (株)大阪共立2.49% また、障害者差別解消に関する取り組みを行っている。	○	構成する3社のうち法定雇用率に達されていない団体があるが、達成に向け取り組んでいることを確認している。また、定期的に人権研修を行っていることを確認した。

・利用者に対するアンケート等、利用者ニーズの情報収集を適切に行うとともに、その結果を踏まえて改善に取り組んでいるか。	○	取り組んでいる。	○	利用者アンケートを実施し、改善に取り組んでいることを確認した。
・事業報告書、日報・月報等を遅滞なく市に提出するとともに、業務の実施状況が適切に報告されているか。	○	遅延なく報告している。	○	遅延なく報告を受けている。
・施設や設備等の修繕に関して、実施記録や要修繕箇所の把握が適切に行われており、適宜、市に報告されているか。	○	適切に行い、報告している。	○	適切に行い、報告していることを確認した。

評価項目 1 (3)の評価基準		
S	全ての項目が適切に実施されており、かつ、特に優れた点が見られる	全ての項目が○、かつ、特に優れた点が見られる
A	全ての項目が適切に実施されている	全ての項目が○
B	一部改善が必要であるが、概ね適切に実施されている	△が1個以上
C	不適切な点があり、直ちに改善を求める	×が1個以上

評価項目 1 業務の履行状況 (3) 募集要項・仕様書記載事項等に関する事項の評価 (所管部署)	A
--	---

2 業務の継続性・安定性

評価ポイントごとの評価基準	
○	適正（適切）である
△	一部改善が必要であるが、概ね適正（適切）である
×	不適正（不適切）である

評価ポイント	指定管理者による一次評価		所管部署による二次評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由
・応募の資格に抵触する事項はないか。	○	ない。	○	応募資格に抵触する事項はないことを確認した。
（監査報告書等） ・会計手続きが適正に行われていることが確認できたか。	○	適正に行っている。	○	適正に行っていることを確認した。
（監査報告書等） ・事業の存続に関わる異常事項が指摘されていないか。	○	指摘されていない。	○	異常事項が指摘されていないことを確認した。
（貸借対照表） ・資産・負債の中に大きな前期比増減がない。／ある場合、その理由は妥当か。	○	大きな増減はない。	○	大きな前期比増減は生じていないことを確認した。
（損益計算書等） ・安定した収益をあげられているか。（赤字となっていないか。）	○	あげている。	○	安定した財務状況となっていることを確認した。
・施設の収支状況（自主事業の収支を含む）が安定しているか。（赤字の場合は、その赤字分を継続的・安定的にカバーできる財務状況となっているか。）	○	安定している。	○	安定していることを確認した。
・その他、団体の経営に影響する要素はないか。	○	ない。	○	団体の経営に影響する要素はないことを確認した。

評価項目 2 の評価基準		
S	継続的・安定的にサービスを提供できる状態であり、かつ、特に優れた点が見られる	全ての項目が○、かつ、特に優れた点が見られる
A	継続的・安定的にサービスを提供できる状態である	全ての項目が○
B	一部改善が必要であるが、概ね継続的・安定的にサービスを提供できる状態である	△が1個以上
C	不適正（不適切）な点があり、直ちに改善を求める	×が1個以上

評価項目 2 業務の継続性・安定性の評価 (所管部署)	A
-----------------------------	---

3 指定管理者による一次評価（総括）

一次評価コメント

令和7年度の来館者数は425,719人となり、目標を上回り（目標比109％）達成した。文化芸術事業は89本実施し、事業参加者数は62,598人（目標比125％）であった。昨年と同程度の来館者と事業参加者を受け入れることができ、計画以上の良好な文化芸術事業と施設貸出・管理と計画通りの適切な運営を行ったと自己評価する。

文化芸術事業では、世界的に高い評価を受ける実力派アーティスト・HIMARIと、国内屈指の在京オーケストラである読売日本交響楽団との共演による「原田慶太楼 × HIMARI」の枚方公演をはじめ、今もっとも人気の高いミュージカル歌手5名を迎えた「ミュージカル・ガラ・コンサート」など幅広い年代の来場が期待できる音楽・ミュージカル・伝統芸能公演を実施し、事業参加者数は目標より13,286人上回った。また、子どもや子育て世代の文化芸術活動の機会充実を図るべく、子どもを対象とした公演鑑賞事業や活動支援事業の開催に加え、文化庁の「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」2公演の採択により、「三浦文彰×清水和音 デュオ・リサイタル」は同伴者含む153名、「宮田大 & LEOデュオ・リサイタル」は同伴者含む119名が鑑賞することができた。加えて、情報誌Family H-Artsを新たに2回発刊し、子どもや子育て世代に向けた文化芸術事業や子育て世代から求められている施設・機能を紹介するなど、施設の魅力発信も行い、幅広い年代の参加者につなげた。文化芸術事業のチケット先行予約会員においては、順調に会員数を伸ばし(28,593名(年間入会者数3,229名))、引き続き、メールマガジンの配信などの情報提供や、ホームページ、情報誌、SNS（センター、市）を積極的に活用した広報を展開し、公演のチケット完売につなげた。「市民総合文化祭」や「枚方市展」、「ひらかた工芸展」など市民の文化芸術活動を寄り添い、市民参加団体と鑑賞者数が増加するよう、協力団体と今期も課題改善に取り組んだ結果、多くの市民・市民団体との信頼関係の強化と、市民同士・市民団体同士が相互につながる機会創出も図れた。

貸館事業は、すべての利用者に最新の情報を提供するとともに、公正、公平な施設貸し出し業務を行うべく、利用の手引きを更新・周知を行った。また、利用者が快適に施設を利用できるように、休館日研修でのサービススキル・マインド研修や、eラーニングによる研修などを通じて、利用者に対する接遇力向上の取り組みを推進した。利用者の希望に合わせて、ホール・諸室・美術ギャラリーは随時下見対応を行い、ホールは貸館下見会を月2回、舞台技術スタッフによる催事内容相談見学会を3月に1回、それぞれ開催し、催事や利用内容の具現化につながる丁寧な案内を実施した。

施設管理・運営では、引き続き、本館・別館一体管理の効率的な運営を行うための体制や対応を行った。施設の不具合への早期改善や中長期を含めた施設の維持管理、施設内と周辺の目視確認を各グループが連携して実施した。本館は5年目に入り、計画以上のホール高稼働と来館者増による不具合が生じているが、細やかな日常保守点検を遂行し微細な不具合や検針数値のわずかな異常も見逃さず即時措置を行い、専門業者も含めた改善対応の徹底を図っている。また、別館においても同様に遂行し、施設保全と適切な施設管理を両立している。加えて、共同事業体全体でお互いの業務内容を理解し、チームワーク醸成を図るワークショップを行ったことで、利用者に寄り添う姿勢や柔軟な対応力、安全・快適な施設管理運営に必要な知識・スキルを身につけたことにより、スタッフ全体のサービス品質と施設運営の一体感が向上し、安全、快適な施設管理運営へとつながった。

4 所管部署による二次評価（総括）

(1) 評価項目ごとの評価結果及び総合評価

評価項目		評価結果	総合評価
1 業務の履行状況			A
	(1) 選定時の基準（確認事項）・事業計画の内容（目標）に関する事項	A	
	(2) 施設の管理運営に関する経費の収支状況（使用料の収入実績を含む）	A	
	(3) 募集要項・仕様書記載事項等に関する事項	A	
2 業務の継続性・安定性		A	

総合評価の考え方

評価項目ごとの評価をそれぞれ S = 4 点、A = 3 点、B = 2 点、C = 1 点として 4 項目（または 3 項目）の合計点数を算出し、そのうち「C」評価が 1 つ以上ある場合はその合計点数から 1 点減点し、下表の区分により総合評価を決定する。

ただし、評価ポイントにおいて「1」や「×」となった理由が重大な内容である場合は、総合評価を「C」評価とする。

点数・評価対応表

評価項目ごとの評価をそれぞれ S = 4 点、A = 3 点、B = 2 点、C = 1 点として 4 項目（または 3 項目）の合計点数を算出し、そのうち「C」評価が 1 つ以上ある場合はその合計点数から 1 点減点し、下表の区分により総合評価を決定する。
ただし、評価ポイントにおいて「1」や「×」となった理由が重大な内容である場合は、総合評価を「C」評価とする。

総合評価		S			A				B			C			
評価項目 が 4 つの 場合	点数	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
	評価項目 の評価 (順不同)	SSSS	SSSA	SSSB	SSAB	SSBB	SABB	AABB	ABBB	BBBB	AACC	ABCC	ACCC	BCCC	CCCC
				SSAA	SAAA	SAAB	AAAB	SBBB	SSCC	SACC	ABBC	BBBC	BBCC		
						AAAA	SSAC	SSBC	SABC	AABC	SBCC	SCCC			
評価項目 が 3 つの 場合	点数	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2			
	評価項目 の評価 (順不同)	SSS	SSA	SSB	SAB	SBB	ABB	BBB	SCC	ACC	BCC	CCC			
				SAA	AAA	AAB	SAC	SBC	ABC	BBC					
					SSC			AAC							

(2) 二次評価コメント

令和7年度の総合文化芸術センターの運営について、概ね計画どおりの管理運営を行っている。

総合文化芸術センターの設置目的を理解し、その運営計画を着実に実行していると評価できる。特に、文化芸術事業では、幅広い世代に向けた多様で質の高い事業を展開しており、高い事業参加者数を達成している。また、子育て世代向け専門情報誌の新設や、文化庁補助金を活用した子どもの無料鑑賞機会の創出、体験型事業から若手支援公演への展開など次世代の育成サイクル構築を具現化する取り組みを行うなど、子どもや子育て世代を対象に積極的なアプローチを行っていることについても確認できた。

施設運営では、利用者アンケートに見られる高い窓口対応満足度はスタッフの専門性とホスピタリティの高さを示しており、丁寧な案内や利用者サポートも評価できる。

施設管理においても、法令遵守はもちろんのこと、計画的な予防保全や細やかな日常点検により、施設の機能保全と安全・快適な環境提供を両立できている。高度処理水停止に伴う給水確保問題や、施設前広場の植栽・雑草対策など、予期せぬ課題に対しても担当部署との連携を密にし、速やかに対応していると評価できる。

今後も、本館その他施設や別館諸室の稼働率向上へのさらなる取り組みや年間を通じた事業実施時期のバランスなど、引き続き改善と発展に努めることで、多くの市民等の交流の促進や都市の魅力向上、にぎわい創出に寄与する拠点としての役割を担っていただくことを期待する。

5 改善指示への対応状況

指示を行った時期	内 容	対応状況
令和 年 月	該当なし	

6 添付資料

- ◆利用者アンケート結果
- ◆利用状況・収支状況